

(研究テーマ)

自然との共生の大切さに気づき、
自分の生活のあり方を見直すことのできる子どもの育成をめざして
～「エネルギー」問題の意識調査を通して～

1. 設定理由

2011年3月11日に発生した東日本大震災と、福島第一原子力発電所の事故により、わが国の電力エネルギーは供給不足に陥った。そのため、私たちは、否応なしに電気の消費を抑えた生活を強いられている。我々、安房社会科教育研究会では、以前より、「自然との共生の大切さに気づき、自分の生活のあり方を見直すこと」の必要性を訴えてきた。今回の否応なしに突きつけられた電力消費抑制を、持続可能なものにするためには、これまでの生活のあり方を見つめ直し、物質的な豊かさや生活の利便性を追いつけてきた生活意識を、他の生物や物質との好ましいバランスを保って共生していく方向へと転換し、理性的に電力の消費量を抑えていくことが必要と考え、本主題を設定した。

2. 研究目標

- (1) 震災以降の子どもたちの節電の現状や、生活スタイルの変化についてのアンケートを実施し、子どもたちの節電へのとりくみとその問題意識を明らかにする。
- (2) 子どもたちの節電へのとりくみとその問題意識から、今回の節電への取り組みがエネルギー問題の本質をとらえたものであるかを検証し、よりよいとりくみするための授業のあり方の視点を明確にする。

3. 研究内容

- (1) 「エネルギー」問題についての検証
- (2) アンケートの実施と考察
- (3) アンケート結果をもとにした授業作りの視点の明確化

4. 結論

- (1) アンケート調査の結果から、子どもたちは、震災を契機に節電への意識を高め、実際に節電につながる行動をとっていることがわかった。しかし、子どもたちが「エネルギー」問題の本質をとらえたうえでの節電にとりくんでいるわけではないことが明らかになった。
- (2) 「エネルギー」問題への知的理解と論理的追求を通して、生活意識の変革をめざす授業のあり方の視点を明らかにすることができた。